





放課後、俺は奉仕部の二人に催眠をかけ、また生オナホとして使ってやることにした。

男
「雪ノ下さんは騎乗位で由比ヶ浜さんはキスして俺を楽しませてね」

雪乃&結衣
「はい」

雪乃はなんの躊躇いもなく俺にまたがり、チンポを自身の秘部に挿入した。



「雪ノ下さんあれから
言いつけ通り
練習してる？」

「ええあれから
毎日膣トレしてるわ♥
体力も付けようと思って
スクワットも取り入れてる♥」

確かに雪乃の秘部は
処女を奪ってやった時よりも
弾力に富み、膣圧が増していた。

「そろそろ頃合いかな」

俺は二人が
深く催眠に掛かっていることを
確信し、部分解除する。

タッ
タッ
タッ



「……!!
またあなた……!
私たちに何をしたの……!!」

「……!!
ちよっ!なんで
あたしキスしてるの
キモい……!!」

二人の少女は激しい嫌悪を
俺に向けてきた。

「やめたければ
やめていいよ
できるものならね」



「ほんとマジでありえないし
でももうちょっとだけ……♡
ぢゅるっ♡ちゅう♡」

結衣は舌を絡めさせ
口の中に入れてきた。
勃起した乳首が俺の腕に擦れる。
発情しているようだ。

「あっ♡あぐっ♡
ゆ……由比ヶ浜さんに
何をしたの……？」

「簡単なことだよ
キスをすればするほど
俺に夢中になる暗示を
掛けただけさ
もちろん雪ノ下さんにもかけてる」

「なっ……」



「雪ノ下さんにかけてた暗示は『ザーメンを中出しされると俺に夢中になる』だ」

「そ…そんな♡
あっ♡あぐっ♡」

雪乃は歯を食いしばり
快楽に抗っていた。

「キス♡好き♡
もっ♡と…♡♡♡
唾液もっ♡とちようだい♡♡」

「んふっ♡くっ♡
由比ヶ浜さん気をしっ♡かり♡」



「そんな嫌なのに
腰がとまらない♡
奥を突かれるたびに
千ポがもっと
欲しくなる♡♡」

「ダメ♡♡
いきたくないのに
イってしまっ♡♡♡」

「オラっ
イけっ!!
二人ともっ!!」



「んはっ♡はっ♡
すごい♡
あなたのオキンプオ汁が…
すごく熱い…♡♡♡」

「どう雪ノ下さん
中出しされた感想は…？」

「し…仕方ないわね♡
奉仕部としてこれから
毎日あなたのキンプオを
満足させるわ…♡」



















放課後、俺は奉仕部の二人に催眠をかけ、また生オナホとして使ってやることにした。

男
「雪ノ下さんは騎乗位で由比ヶ浜さんはキスして俺を楽しませてね」

雪乃&結衣
「はい」

雪乃はなんの躊躇いもなく俺にまたがり、チンポを自身の秘部に挿入した。



「雪ノ下さんあれから
言いつけ通り
練習してる？」

「ええあれから
毎日膣トレしてるわ♥
体力も付けようと思って
スクワットも取り入れてる♥」

確かに雪乃の秘部は
処女を奪ってやった時よりも
弾力に富み、膣圧が増していた。

「そろそろ頃合いかな」

俺は二人が
深く催眠に掛かっていることを
確信し、部分解除する。

タッ
タッ
タッ



「……!!
またあなた……!
私たちに何をしたの……!!」

「……!!
ちよっ!なんで
あたしキスしてるの
キモい……!!」

二人の少女は激しい嫌悪を
俺に向けてきた。

「やめたければ
やめていいよ
できるものならね」



「ほんとマジでありえないし
でももうちょっとだけ……♡
ぢゅるっ♡ちゅう♡」

結衣は舌を絡めさせ
口の中に入れてきた。
勃起した乳首が俺の腕に擦れる。
発情しているようだ。

「あっ♡あぐっ♡
ゆ……由比ヶ浜さんに
何をしたの……？」

「簡単なことだよ
キスをすればするほど
俺に夢中になる暗示を
掛けただけさ
もちろん雪ノ下さんにもかけてる」

「なっ……」



「雪ノ下さんにかけての暗示は『ザーメンを中出しされると俺に夢中になる』だ」

「そ…そんな♡
あっ♡あぐっ♡」

雪乃は歯を食いしばり
快楽に抗っていた。

「キス♡好き♡
もっ♡と…♡♡♡
唾液もっ♡とちようだい♡♡」

「んふっ♡くっ♡
由比ヶ浜さん気をしっ♡かり♡」



「そんな嫌なのに
腰がとまらない♡
奥を突かれるたびに
千ポがもっと
欲しくなる♡♡」

「ダメ♡♡
いきたくないのに
イってしまっ♡♡♡」

「オラっ
イけっ!!
二人ともっ!!」





んあーい

んあーい

んあーい

んあーい

んあーい

んあーい

んあーい

んあーい

どびゅっ♡びゅく♡
びゅるっ♡びゅく♡
♡びゅく♡びゅくん♡
♡♡

「んはっ♡はっ♡
すごい♡
あなたのオキンプオ汁が…
すごく熱い…♡♡♡」

「どう雪ノ下さん
中出しされた感想は…？」

「し…仕方ないわね♡
奉仕部としてこれから
毎日あなたのキンプオを
満足させるわ…♡」



あの後
結衣がケツを振って
おねだりしてきたから
恵んでやることにした。

「このちに
もつとケツを出して」

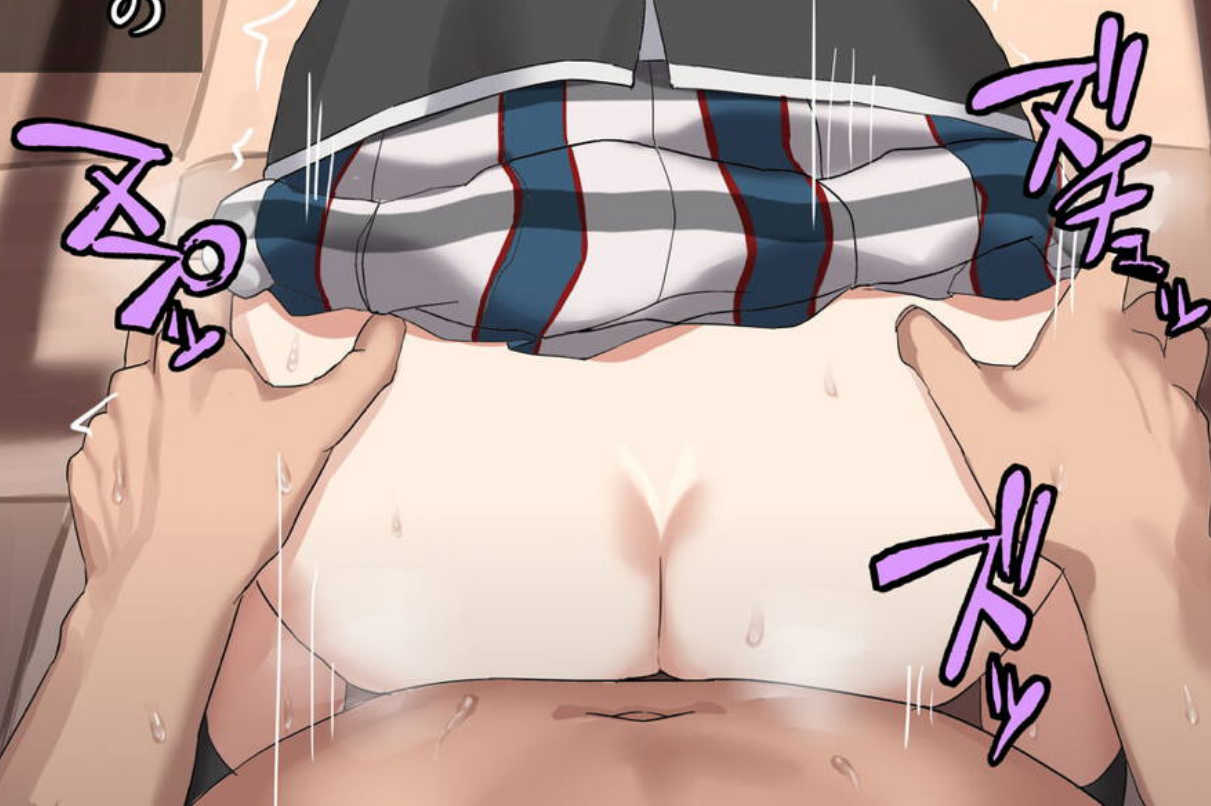
「はい♡」



「すげえ
もうまんこの中
ぐじゅぐじゅだね」

「ゆきのんが
エツ干してた時から
ずっとがマンしてた……
あっ♡」

発情しきった結衣の
秘部が必死に
絡みついてくる。



「最初の処女の時と
違って随分チンポの
扱いがうまくなつたね」

「いろいろエツ干な
事教えてくれたから
あっ♡♡」

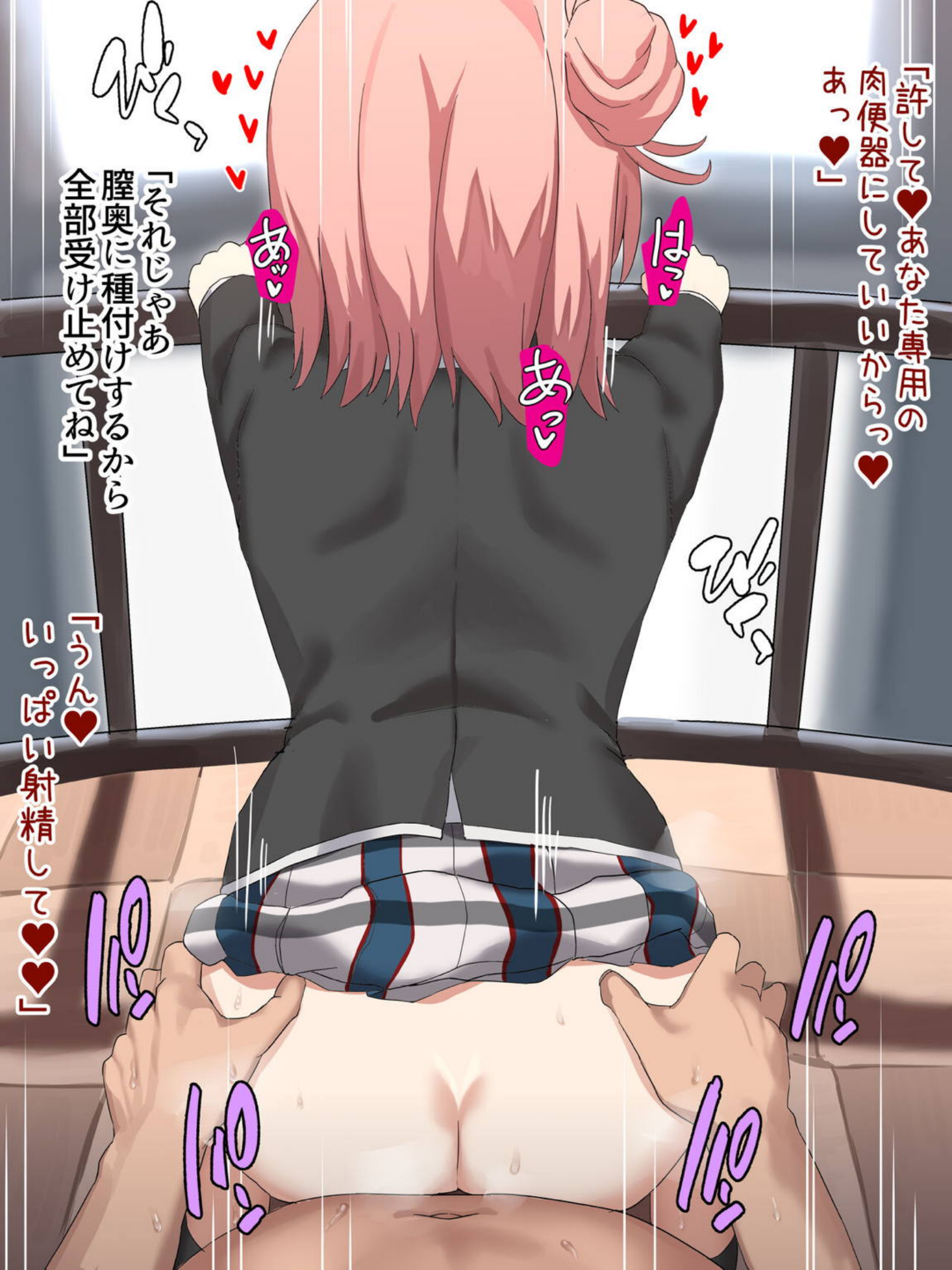
「でもさっきは
にらみつけてきたよね」



「許して♥あなた専用の
肉便器にしているからっ♥
あっ♥」

「それじゃあ
膣奥に種付けするから
全部受け止めてね」

「うん♥
いっぱい射精して♥♥」



「射精すぞっ!!」

アッアッ

あああ

アッアッ

アッアッ

アッアッ

アッアッ



「うおっ!
すごい締め付け...!
由比ヶ浜さんがっつき
すぎだつて...!」

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

「そんなこと
言われても
あっ♡あっ♡」



「あっ♥はあっ♥
精液がもれちゃう……♥♥♥」

んく〜

「すごいマン尻♥
また溜まったら
使ってやるからな……」

んく〜

んく〜





























